

花うさぎの「世界は腹黒い」2

日本が普通の国になるように。
産経新聞を応援しています。

自虐史観日本人に見せたい名画「凜として愛」

(2011/11/25) 1/1

(<http://hanausagi2.iza.ne.jp/blog/entry/2520417/>)

12月8日、大東亜戦争開戦・真珠湾攻撃の日

戦争に負けたのは仕方がない

だが幾百万の英霊に愛をこめた 感謝を捧げるべきであった...

今年も12月8日の「大東亜戦争開戦、真珠湾攻撃」の日が近づいてきました。私のブログに訪問してくれる方は、この戦争がルーズベルト大統領によって、日本を戦争に引き込むために仕掛けられた謀略だった、ということをご存知の人ばかりだと思います。しかし、世の中、そうした「真実」を知っている日本人はまだ少数派、「軍部の暴走で戦争が起こった」などという自虐史観が多数派というのが実情です。

そういう誤った自虐史観の日本人に何としても見て頂きたいのが、本日ご紹介する名画「凜として愛」です。「わかってるよ、散々書いてきたじゃないか、何回おなじネタ続けるんだ！」と怒られそうですが、今回は愛国女性の集い・花時計一周年記念「凜として愛」上映会(7月17日、文京シビックセンター)の際に頂いた「凜として愛」の台本という新ネタをご紹介します。

私はこの台本というのを真剣に読んだのは初めてですが、ナレーションや台詞だけでなく、画面の描写や使用する音楽、効果音まで書かれているのを見て、これは臨場感のある貴重な資料だと改めて感じました。明治開国から大東亜戦争までの近現代史を、僅か60分強という短編の中に、これほど見事に描写したノンフィクションはこの映画しかないでしょう。

もし、私がしかるべき権力者のポジションに着いたら、というのを考えて見ました。NHKや靖国神社遊就館で放映というのはもちろんですが、国や地方の公務員の採用・昇進試験に、この映画から出題する。国や地方の議員に立候補する人も立候補資格の中に試験合格を条件としてこの映画から出題する。大手メディアや教員・自衛官・警察官・裁判官も当然含める。全国で行われる成人式で上映する。ネガティブな回答をした受験者は根こそぎ落第!。これをやってみたいですね。

それはともかく、もう数十回も見てきた「凜として愛」ですが、泉水隆一監督ご自身によるナレーションの見事さは、何か超越したような凄さを感じさせます。同じ監督の他の作品・ナレーションも動画で見られるのですが、これほど鬼気迫った緊張感を感じられませんから、ある意味「奇跡」に近い出来映えなのでしょう。

で、いつも私の胸に「ぐさっ」とくるのが、この部分です。「戦争に負けたのは仕方がない だが日本人は戦いに敗れても 誠実さが必要だった 日本という国に 祖国に尽くした幾百万の英霊に 幾千万の先人に 愛をこめた感謝を捧げるべきであった ...が 果たせなかった 多くの日本人が裏切った。」そんなんですかね?。あれほど私たちの祖国を守るために闘って散華された数多くの英霊や、ようやく帰還した兵隊さんを、終戦直後の日本人がそういう態度をとったとは、いまだに信じられません。

エントリー最後に出てくる名越二荒之助氏ですら「わからない」と言っているのですから、私ごときが理解できるはずもないのですが、当時の情勢を体験しているひとから直接納得のいく説明を聞いてみたいものです。と言うわけで、本日はyou tubeにアップされている動画全7本をフルサイズで収録、このうち、スタートから二番目の中程までのテキストを台本から転載してお届けします。なお、「凜として愛」のDVDは花時計さんで資料として配付していますので、是非皆さん、上映会などで拡散をお願い致します。

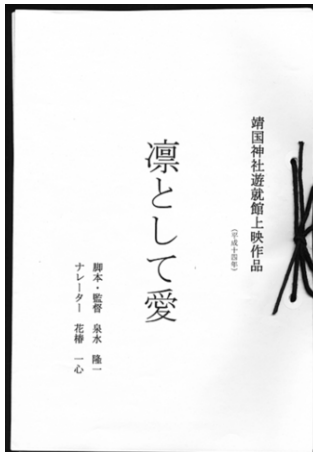
靖国神社遊就館上映作品(平成十四年)

凜として愛

脚本・監督 泉水隆一
ナレーター 花椿一心

<画面> <解説>
靖国神社社紋

1 花畑の中を駆ける子供たち (音楽) 柔らかく、微笑みにあふれて...
《国家によって安全と平和 生命と財産を護れなかった国民の悲惨さを私たちは知らない》
2 雨の中の戦車 (音楽) 激しく転調勇しく
・企画、製作、スタッフ、協力名が次々と紹介されていく。
脚本・監督 泉水 隆一



この「凜として愛」の台本のPDFファイルが「花時計」さんのHPにアップされています。

<<詳細は「凜として愛」台本をご覧ください。25頁(A4)>>
http://www.hanadokei2010.com/rintositeai/rintositeai_daihon.pdf

名越『そこがまあ、日本人の個性というのかねえ。今でもわからんですよ。終戦直後に朝日新聞なんか見ればですね、一億が慟哭して皇居前でその土下座してですね、靖国神社の社殿でも土下座して、その自分の至たらなさねえ、そしてその慟哭したわけでしょう。それがもうわずかな間にクルッと引っ繰り返ってしまった。それで、そこにまあ日本人の軽薄さといえますかねえ。日本がこんなに悪いことをした、こんな悪行をしたということですね、ラジオを通じて、テレビを通じてやりだした。みんなそれに染まってしまったという、そういう日本人の便乗癖ですね...』

N「名越二荒之助。高千穂商科大学前教授。昭和19年入営。終戦後、ソ連に抑留経験を持つ。帰国してから歪められた日本近代史を世界史の見地から見なおそうと、独自の活躍をしている」

名越『明治維新に成功する。見事な成功ぶりです。それから国論の一致。富国強兵と云いそうですね。それで大国ロシアを打ち破る。アジア諸国に大きな感動を与える。それでアジア諸国はですねえ、それに触発されてですねえ、みな独立精神を奮い起こそうとした。それでその最終結論みたいなものが大東亜戦争であったと。これはまあ欧米諸国の植民地勢力に対する日本の抵抗。アジアを代表する日本の抵抗であったと。日本が敗れたらですねえ、もうアジアは永遠に彼らの支配下に陥ってですねえ、永遠に植民地にされてしまうと。アジア安定の責任は日本にあると。日本人の使命であると、日本の責任だということですね、常にまあこの口ずさんでおったし、私なんか小学校以来そう考えておった。日本が負けたら、日本が弱くなったらですね、まあ負けることはなかった、負けるとは考えなかった。日本が弱くなったらアジアが駄目になると、アジアの責任を感じておったと、アジア安定の。それは一言で云えば、日本の近代史の最大の使命だったですね』

【関連エントリー】

- ・凜として愛、真実の歴史!
- ・「凜として愛」上映会に感激の拍手!
- ・「凜として愛」英語版が完成!
- ・不死鳥のように甦った「凜として愛」!
- ・「凜として愛」上映会、花時計一周年記念イベント

*写真・動画・イベント情報・関連リンク先などは是非、ブログにてご覧下さい!



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画
マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きな人は必見!
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り~伝えよう日本のあゆみ~」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

わからない事は
調べましょう!

検索

iza ブログランキング
【全体】4位 【政治】1位
(2011年10月8日時点)